

厚生労働省医薬・生活衛生局  
血液製剤使用適正化方策調査研究事業

長野県輸血療法部会による医療機関評価体制の  
導入による血液製剤使用の適正化および  
輸血教育・研究の推進

令和元年度 総合研究報告書

研究代表者 柳沢 龍  
(長野県献血推進協議会輸血療法部会)

令和2年(2020年)3月

厚生労働省医薬・生活衛生局  
令和元年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業  
研究報告書

研究課題

長野県輸血療法部会による医療機関評価体制の導入による  
血液製剤使用の適正化および輸血教育・研究の推進

	<b>委員会名</b>	長野県献血推進協議会輸血療法部会
主任研究者	柳沢 龍	長野県献血推進協議会輸血療法部会長 信州大学医学部附属病院輸血部 副部長
分担研究者	小嶋俊介	ASSISTワーキンググループ 座長 信州大学医学部附属病院輸血部

**研究要旨**

長野県では、献血制度の普及を図るとともに献血制度の適正な運営を確保するため、「長野県献血推進協議会（昭和39年設置 会長：長野県知事）」を設置しており、平成22年度にはこの協議会の中にさらに「輸血療法部会」（事務局：長野県健康福祉部薬事管理課，長野県赤十字血液センター）を設置した。輸血療法部会は長野県における合同輸血療法委員会の中核組織と位置づけられ、長野県内における血液製剤の安全かつ適正な使用を推進し、輸血療法の向上を図ることを設置の目的としており、血液製剤使用量の多い県内13の医療機関と長野県赤十字血液センター，長野県健康福祉部薬事管理課より関係者が委員として参加している。これまでに、長野県内で輸血療法を実施した医療機関に対し輸血用血液製剤および血漿分画製剤の使用状況実態調査や当該結果を踏まえた検討会並びに講演会の開催を実施してきた。今年度の取り組みとして、県内の輸血療法の更なる改善および発展性を期待して、長野県輸血療法部会による医療機関評価体制の導入を行い血液製剤使用の適正化および輸血教育の推進を実施したので報告する。

**A. 研究組織の概要**

長野県では、献血制度の普及を図るとともに献血制度の適正な運営を確保するため、「長野県献血推進協議会（昭和39年設置 会長：長野県知事）」を設置してい

るが、平成22年度にこの協議会の中に「輸血療法部会」（事務局：長野県健康福祉部薬事管理課，長野県赤十字血液センター）を設置した。輸血療法部会は長野県における合同輸血療法委員会の中核組織と位

置づけられ、長野県内における血液製剤の安全かつ適正な使用を推進し、輸血療法の向上を図ることを設置の目的としており、血液製剤使用量の多い県内13の医療機関と長野県赤十字血液センター、長野県健康福祉部薬事管理課より関係者が委員として参画している。また、平成26年度、輸血現場に最も近い看護師の立場から輸血療法に関わる実践の標準化および啓発活動を推進するために、看護師専門委員会を設置し活動を開始した。さらに平成27年度には、輸血検査および技術の向上を目的とし、認定輸血検査技師専門委員会を設置した。

これまでに、長野県内で輸血を実施した医療機関に対し輸血用血液製剤および血漿分画製剤（以下「輸血用血液製剤等」という）の使用状況実態調査や当該結果を踏まえた検討会並びに講演会を例年開催してきた。さらに平成27年度は「輸血に関わる地域包括ケアに向けた長野県輸血療法部会としての役割と活動」、平成28年度は「地域特性に即した輸血療法に対する長野県輸血療法部会としての取り組み」をそれぞれ血液製剤使用適正化方策調査研究事業の助成を受け実施することにより、長野県輸血療法部会の活動基盤も飛躍的に向上されるに至った。これらの研究実績に基づき、平成30年度には「長野県輸血療法部会による医療機関評価体制の導入による血液製剤使用の適正化および輸血教育・研究の推進」を新たな研究テーマとして発案し、血液製剤使用適正化方策調査研究事業に採択された。本研究結果は、着実な成果や評価が得られつつある一方で、単年度で実施可能な活動内容

には限りがあった。一方で県内の複数の医療機関から今年度も引き続いての研究実施を要望する声が多く聞かれたこともあり、昨年度までの活動内容を継続しつつ、さらに発展的な研究内容を計画することとした。

## B. 研究計画の概要

長野県においては、これまで輸血療法部会が中心となり、血液製剤使用適正化の推進活動を継続してきた。これまでの活動により県内の多くの医療機関において輸血療法に関する教育を受ける機会が基本的に乏しく、結果的に輸血療法に関する知識や技術が施設間によって大きな格差を生じていることが明らかとなった。また災害等発生時の危機管理体制については、ほとんどの医療機関でマニュアルの整備が実施されていないことも明らかとなった。さらに一般的な輸血療法マニュアルに至っても存在しない、内容が不十分、記載内容が現在の診療に即していないなどの問題があることも判明した。したがって、我々は長野県内における輸血療法全体の底上げの実施が急務であると判断し、長野県輸血療法部会として数年がかりで輸血に関わる教育活動や啓発運動を実施するとともに、全県で共有できる輸血マニュアルを制定し、さらに県内共通の災害時等緊急時の医療機関における輸血用血液製剤の確保に関するガイドラインの整備等を順次実施するとともに血液製剤使用の適正化に貢献してきた。

こうした活動は県内輸血療法全体の向上に着実な成果を挙げつつある一方で、輸血療法部会として1年間に開催できる

教育集会も限りがあること、県内140近く存在する医療機関の規模はまちまちであり実際には各医療機関に即した輸血事情には格差があること、各医療機関からの積極性が得られなければ対話が一方になりがちであることなどの問題が解決すべき課題としてあげられた。したがって、各医療機関で必要とされる輸血療法を踏まえた上で、さらに各医療機関で実施できる項目、改善できる項目、求められる今後の課題、現在国内で一般的に実施されている血液製剤使用の適正化の方策との相違などをアドバイスすることを目的として、輸血療法部会構成員並びに県内の医療機関から有志を募り、血液製剤使用の適正化および輸血教育・研究の推進を目的とした県内における外部評価組織を平成30年度に立ち上げた。

この組織は、「適正 (Appropriate) かつ安全 (Safe) な輸血療法 (Transfusion) を実現するためには信州 (Shinshu) における独自の訪問 (Interview) と支援 (Support) により手助けする必要がある」という理念を込めて、ASSISTワーキンググループと命名され、長野県内に存在する様々な医療機関の規模や地域性、また求められる輸血事情の相違等を加味した長野県独自の評価項目を用いて活動している (資料 1)。

平成30年度は、初めて取り組みであり事前準備等に時間を要したため、3施設のみでの訪問に留まった。しかし、各訪問においては活発な意見交換がなされる場面が多数見られ、これまでの一方的な情報発信から各医療機関に合わせた具体的なアドバイスを実施することが可能であった。

本活動により、各医療機関の輸血に関わるスタッフから直接意見を収集できる貴重な場を持てたことや、普段の輸血療法の会合に参加されていない医師や医療安全に関わるスタッフからの意見を聴けたことだけでなく、訪問した側のメンバーも情報交換によって知識が得られる教育的側面を有すると考えられた。ゆえに、今後も活動を継続していくことは、県内の輸血用血液製剤等の使用適正化の推進活動への反映が期待できると考えられた。

昨年度は県内でも比較的規模が大きい医療機関に限定した訪問になったが、今年度は中小規模の医療機関へも訪問することを目標とした。また、訪問活動を実施するのみではなく、結果に関しては積極的に訪問施設だけでなく県内医療機関向けにフィードバックを行っていくことを計画した。さらに活動内容を県内だけでなく県外においても発信していくことで、活動が広く認知され、外部からの情報が得にくい小規模医療機関へのアプローチにもつながることが期待された。

ASSISTワーキンググループは、県内各医療機関、赤十字血液センターの多職種による19名で構成されているが、構成員として医療機関を訪問することによって得られうる教育的要素についても啓蒙することで、さらに多くのメンバーで構成できるように計画した。本活動は多職種で構成されるため、日程調整が最も難しい課題でありまた律速段階となることが多く、この問題を解決できるようにするためにも構成員の増員並びに訪問メンバー構成には工夫を加える必要があると考えられた。

## C. 活動内容

### 1. 県内における啓発活動

昨年度の本研究事業における報告書並びにASSISTワーキンググループの活動案内について長野県輸血療法部会のHPへアップロードした(資料 2)。さらに、講習会や勉強会の協力も実施していることを強調した案内も作成し、県内医療機関へ配布を行った(資料 3)。

### 2. 県外での活動報告

2019年9月、第148回日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部例会においてASSISTワーキンググループのこれまでの活動報告を行い、優秀演題賞を受賞した(資料 4)。また、同年10月、第43回日本血液事業学会においても同様に活動報告を行った(資料 5)。

### 3. メンバーの再構成

ASSISTワーキンググループのメンバーについて、輸血療法部会並びに看護師専門委員会および認定輸血検査技師専門委員会の構成員に向けて再構成する旨を連絡したところ、26名の応募が得られた。内訳としては、医師が3名、看護師が10名、検査技師が13名であった。

### 4. 長野県輸血療法マニュアルの改訂

長野県輸血療法部会では、平成29年に全県で共有できる輸血マニュアルを制定しており、訪問時においてはこのマニュアルや各種ガイドラインを基に支援を行っていた。マニュアルの初版を発行してから3年近くが経過しており、各種ガイドラインの内容を反映させるべく、改訂ワ

ーキングを構成し、「長野県輸血療法マニュアル(Ver 2.0)」を発行した(資料 6)。

## D. 訪問実績

訪問に際しては、事前質問票を用いた聞き取りや訪問医療機関の輸血マニュアル等を事前に提示してもらうことで、資料を作成し実施した。

今年度は5施設への訪問を実施した。

### (訪問医療機関①)

- 医療機関規模：99床以下(小規模)
  - ※産科クリニック
- 訪問者：3名(検査技師：3名)
  - ※赤十字血液センター職員：1名
- 訪問時間：1時間
- 訪問希望：輸血手順並びに輸血副反応に関する勉強会(出来るだけ多くのスタッフが参加できるようにランチョン形式を希望)、輸血実施手順書の内容確認
- 実施形式：セミナー(講演：45分、質疑：15分)
- 参加者：18名(看護師、助産師、検査技師、補助者、クラーク)

### (訪問医療機関②)

- 医療機関規模：99床以下(小規模)
- 訪問者：7名(医師：1名、看護師：1名、検査技師：4名、県職員：1名)
  - ※赤十字血液センター職員：2名
- 訪問時間：3.5時間
- 訪問希望：新規輸血マニュアルの内容確認、輸血療法の手順確認(全ての流れを実践しながらの確認を希望)、質問事項(22項目)への回

答，同意書並びに副反応報告書の内容確認

- 実施形式：輸血療法の概要説明並びに模擬依頼による実践を基にした質疑応答（2時間），輸血管理部署の見学（30分），総合ディカッション（1時間）
- 参加者：6名（医師，看護師，検査技師）

※病院長，輸血療法委員長を含む

#### （訪問医療機関③）

- 医療機関規模：300床以上（大規模）
- 訪問者：4名（医師：1名，検査技師：3名）

※赤十字血液センター職員：2名

- 訪問時間：2時間
- 訪問希望：輸血療法全般についての厳格な評価（特に適正輸血，カルテ記載等），輸血後感染症検査の相談，医療法一部改正に伴う輸血検査の確認
- 実施形式：輸血療法の概要説明を基にした質疑応答（1.5時間），輸血管理部署の見学（15分），総合ディカッション（15分）
- 参加者：6名（医師，看護師，検査技師，事務）

※輸血療法委員長，外科部長を含む

#### （訪問医療機関④）

- 医療機関規模：99床以下（小規模）
- 訪問者：4名（看護師：1名，検査技師：3名）

※赤十字血液センター職員：1名

- 訪問時間：1.5時間
- 訪問希望：輸血療法全般の勉強会，輸血実施手順書の内容確認，質問事項（7項目）への回答
- 実施形式：セミナー（講演：1時間，質疑：30分）
- 参加者：約30名（看護師，検査技師）

#### （訪問医療機関⑤）

- 医療機関規模：100～299床（中規模）
- 訪問者：3名（医師：1名，検査技師：2名）

※赤十字血液センター職員：3名

- 訪問時間：1時間
- 訪問希望：輸血副反応に関する勉強会（主に看護師対象）
- 実施形式：セミナー（講演：25分，質疑：5分）×2回
- 参加者：97名（医師，看護師，検査技師，薬剤師，理学療法士，事務，その他）

## E. 活動の評価および今後の展望

昨年度においては，ASSISTワーキンググループに関する活動案内を各医療機関へ配布することで訪問希望を募っていた。しかし，昨年度に訪問した3施設は，いずれも輸血療法部会に属する医療機関であり，本活動自体が始まったばかりということも相まって，活動が浸透していないことが明らかとなった。そこで，県内の多くの医療機関からの参加者が見られる「長野県における輸血療法に係る検討会」において，ASSISTワーキンググループの紹介と昨年度の活動報告を行った。また，

昨年度の本研究事業の報告書並びに ASSISTワーキンググループの活動案内について長野県輸血療法部会のHPへアップロードし、県内への宣伝活動を展開した。さらに、活動案内だけでなく、これまでの活動のフィードバックとして学会発表も行い、多くの医療機関へ投げかけてきた。このような活動により、訪問医療機関数は5施設と大幅に増えた訳ではなかったが、4施設は輸血療法部会と直接的には関わりのない医療機関からの依頼であった。さらに100床未満の小規模医療機関においても3施設で訪問活動を実施できたことは、大きな成果であったと考えられる。このうち2施設においては輸血療法の実践に関する勉強会と輸血実施手順書の内容確認を求められており、小規模医療機関においては輸血実施機会が少ないため、輸血療法全般に関する不安感が多くみられることが予期された。これは、実際の訪問先での質疑応答においても実感できたことである。小規模医療機関への活動を通じて、当初に作成した訪問案内では、本活動を利用することの敷居が高いと感じ取られる可能性が危惧された。それゆえに、講習会を中心とした活動も実施している旨が伝わるような新たな案内を作成し啓発を開始した。今後は間口を広く構え、大小いかなる規模の医療機関にも対応できるように活動を展開していく必要がある。

いずれの医療機関においても輸血療法に関する疑問や不安を抱いているは、共通して看護師が中心であった。本活動にメンバーは増員されたとは言え、全26名のうち看護師は10名と半数にも満たない

状況である。さらに、訪問日は希望日を挙げてもらう運用となっているため、シフト勤務が中心となる看護師においては、日程調整の困難さから1名も訪問メンバーに加えることができないことも見られた。このようなことより、ASSISTワーキンググループのメンバー構成において、半数以上が看護師であることがこの先の活動を進めていく上での目標の一つと思われる。また、他の施設を訪問することで新たな情報収集を可能にすることから考えても、輸血療法において最も患者の傍にいる看護師の構成メンバーが増えることが望ましいと考えられる。

これまで長野県輸血療法部会の活動内容は一方向的な情報発信に偏りがちであったが、本研究の実施により各医療機関に合わせた具体的なアドバイスを実施することが可能であったと考えられる。今後、各施設並びに長野県輸血療法部会における血液製剤使用適正化の推進活動にも大変有意義な成果が得られたと考えられる。

今後も多種多様なニーズに対応し、県内全体における輸血療法の安全性向上に寄与できるように活動を継続したい。また、これまでではなかなか得ることが困難で課題でもあった各医療機関からのフィードバックを積極的に収集するとともに、長野県輸血療法部会全体の活動内容に反映し輸血教育並びに研究へ展開していく予定である。

## F. 研究発表

### 1. 論文

1. Yanagisawa R, Tatsuzawa Y, Ono T,

- Kobayashi J, Tokutake Y, Hidaka E, Sakashita K, Nakamura T. Analysis of clinical presentations of allergic transfusion reactions and febrile non-haemolytic transfusion reactions in paediatric patients. *Vox Sang.* 2019 114:826-34.
2. Yamanaka M, Yanagisawa R, Kojima S, Nakazawa H, Shimodaira S. Investigation of factors associated with allergic transfusion reaction due to platelet transfusion and the efficacy of platelets resuspended in BRS-A in adult patients. *Transfusion.* 2019 59:3405-12.
- 2. 学会発表**
1. 小嶋俊介, 竹村佳代, 赤羽由貴, 古川聖美, 山中万次郎, 紺野沙織, 小林純, 柳沢龍, 下平滋隆. 重炭酸リンゲル液とM-solによる洗浄血小板の臨床的有効性の比較検討. 第67回日本輸血・細胞治療学会総会 (2019年5月23-25日, 熊本)
  2. 山中万次郎, 小嶋俊介, 紺野沙織, 竹村佳代, 赤羽由貴, 古川聖美, 中澤英之, 柳沢龍, 下平滋隆. 成人領域におけるBRS-Aを用いた洗浄血小板の安全性および有効性の検討. 第67回日本輸血・細胞治療学会総会 (2019年5月23-25日, 熊本)
  3. 紺野沙織, 井出裕一郎, 柳沢龍, 坂下一夫. Stage IVの神経芽腫に対する化学療法実施に伴い必要とされる輸血頻度の検討. 第67回日本輸血・細胞治療学会総会 (2019年5月23-25日, 熊本)
  4. 原博明, 小林幸子, 中野聡, 宮島誠, 下条久志, 矢ヶ崎宏紀. 当院における災害時輸血対応マニュアル作成の取り組み. 第67回日本輸血・細胞治療学会総会 (2019年5月23-25日, 熊本)
  5. 小林伶, 小嶋俊介, 佐伯成規, 村上純子, 柳沢龍. 長野県輸血療法部会による県内医療機関を対象とした訪問活動の実施. 第148回日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部例会 (2019年9月7日, 千葉)
  6. 大田智, 平林盛人, 小池敏幸, 村上純子, 佐伯成規, 太田靖, 小嶋俊介, 柳沢龍. 輸血療法実施医療機関へのアドバイス・サポート訪問活動報告. 第43回日本血液事業学会 (2019年10月2-4日, 宮城)
  7. 関史行, 渡邊満, 村田近文, 樋口勇夫, 小池敏幸, 村上純子. 長野県における血小板製剤供給規模縮小の後方視的検討. 第43回日本血液事業学会 (2019年10月2-4日, 宮城)
  8. 平林盛人, 村田近文, 大田智, 小池敏幸, 村上純子. 医薬情報担当者が輸血療法委員会へ参加することの効果・第二報～輸血療法委員会継続参加3年目を迎えて～. 第43回日本血液事業学会 (2019年10月2-4日, 宮城)
  9. 松尾壘, 佐藤彩夏, 関文恵, 松村武, 仁科正子, 櫻井定明, 小池敏幸, 村上純子. SNSターゲティング広告による若年層献血者数増加の可能性. 第43回日本血液事業学会 (2019年10月2-4日, 宮城)
  10. 滝沢容子, 笹岡紀子, 井出ひろか, 本

山健, 丸山里美, 村上純子. 年末年始  
の血小板指示数の確保に向けた採血  
係による予約システムの構築. 第43  
回日本血液事業学会 (2019年10月2-  
4日, 宮城)

(資料1)

ASSIST ワーキンググループ設置要領

(名 称)

- 1 本会は長野県献血推進協議会輸血療法部会 ASSIST ワーキンググループ (以下「ASSIST WG」という。)と称する。

(目 的)

- 2 ASSIST WG は、長野県内の輸血療法実施医療機関を対象に、訪問によるアドバイスやサポートを主軸として活動し、もって輸血療法実施医療機関の血液製剤使用適正化を推進することを目的とする。

(活 動)

- 3 ASSIST WG は、前項の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。  
ア 輸血療法実施医療機関における現状の把握、課題の整理・検討及びアドバイス・サポートに関すること(施設訪問による活動を含む)  
イ その他、ASSIST WG が必要と認める事業

(組 織)

- 4 ASSIST WG は、次に掲げる者が委員となって組織する。  
ア 長野県献血推進協議会輸血療法部会に属する者  
イ 同部会看護師専門委員会または認定輸血検査技師専門委員会に属する者  
ウ その他、輸血療法部会長が必要と認める者

(座 長)

- 5 ASSIST WG に座長を置く。座長は、ASSIST WG 委員の互選により選出する。  
(1) 座長は会務を総括し、ASSIST WG を代表する。  
(2) 座長に事故あるときは、あらかじめ座長の指名する者が職務を務める。

(会 議)

- 6 ASSIST WG は、必要に応じて開催し、座長が会議の議長を務める。

(事務局)

- 7 ASSIST WG の事務局は、長野県健康福祉部薬事管理課及び長野県赤十字血液センターに置く。

(その他)

- 8 この要領に定めるもののほか、ASSIST WG に関して必要な事項は、座長が別に定める。

附 則 この要領は、平成30年11月6日から施行する。

## (資料2)

### 長野県輸血療法部会HPの一部抜粋

#### 長野県献血推進協議会輸血療法部会

長野県では、献血制度の普及を図るとともに献血制度の適正な運営を確保するため、「長野県献血推進協議会」（昭和39年設置、会長：長野県知事）を設置しています。

この協議会の中に、「輸血療法部会」（事務局：長野県健康福祉部薬事管理課、長野県赤十字血液センター）を平成22年度に設置しました。「輸血療法部会」は、長野県における合同輸血療法委員会の中核組織と位置づけられ、長野県内における血液製剤の安全かつ適正な使用を推進し、輸血療法の向上を図ることを設置の目的としており、血液製剤使用量の多い県内13の医療機関と長野県赤十字血液センター、長野県健康福祉部薬事管理課より関係者が委員として参画しています。

また、平成26年度、輸血現場に最も近い看護師の立場から輸血療法に関わる実践の標準化及び啓発活動を推進するために、「看護師専門委員会」を設置し活動を開始しました。さらに、平成27年度には、輸血検査および技術の向上を目的として、「認定輸血検査技師専門委員会」を設置して、活動を開始しています。

[PDF](#) [長野県献血推進協議会輸血療法部会設置要領（PDF：86KB）](#)

[PDF](#) [長野県献血推進協議会輸血療法部会委員名簿（PDF：93KB）](#)

#### 活動内容

[PDF](#) [平成27年度長野県献血推進協議会輸血療法部会活動内容（PDF：1,927KB）](#)

[PDF](#) [平成27年度「血液製剤使用適正化方策調査研究事業」報告書（PDF：6,744KB）](#)

[PDF](#) [平成28年度長野県献血推進協議会輸血療法部会活動内容（PDF：528KB）](#)

[PDF](#) [平成28年度「血液製剤使用適正化方策調査研究事業」報告書（PDF：4,247KB）](#)

[PDF](#) [平成29年度長野県献血推進協議会輸血療法部会活動内容（PDF：188KB）](#)

[PDF](#) [平成30年度長野県献血推進協議会輸血療法部会活動内容（PDF：177KB）](#)

[PDF](#) [平成30年度「血液製剤使用適正化方策調査研究事業」報告書（PDF：3,294KB）](#)

#### 輸血療法実施医療機関を対象とした施設訪問（ASSIST WG）活動について

輸血療法実施医療機関を対象として輸血療法に関するアドバイスやサポートをすることを目的とした「ASSISTワーキンググループ」（以下「ASSIST WG」という。）を当部会内に設置し、活動しています。

[PDF](#) [「ASSIST WG 活動案内」（PDF：223KB）](#)

訪問メンバーは、当部会に所属している医師、看護師、臨床検査技師等です。

訪問に費用はかかりません。

施設訪問の希望がありましたら、以下の様式に必要事項を記入し、事務局（長野県健康福祉部薬事管理課）までファクシミリまたは電子メールにてお申し込みください。

なお、訪問メンバーの日程調整等がありますので、訪問希望日が決まりましたら、早めにお申し込みください。

[Word](#) [「ASSIST WG 訪問申込書」（ワード：20KB）](#)

(資料3)

ASSISTワーキンググループ 勉強会向け活動案内

**長野県献血推進協議会 輸血療法部会**  
**ASSIST ワーキンググループ からのお知らせ**

**輸血療法に関する  
勉強会・学習会の講師  
無料で承ります！**

勉強会や学習会の内容に  
困っていませんか？

患者さんにとって安全で適正な輸血療法を目指している『長野県献血推進協議会輸血療法部会』のASSISTワーキンググループでは、輸血療法に関する医療安全対策のための研修などの講師（医師、看護師、臨床検査技師）を無料で派遣しています。交通費もいりません。医療機関の規模や参集人数、開催時間にかかわらず、是非ご活用ください。

【テーマ例】

- 輸血マニュアルの活用
- 輸血副作用・看護のポイント
- 血液製剤の取り扱い
- 病院機能評価の対策 など



また、次のような日頃の業務における疑問について  
「教えてもらいたい！」「意見交換したい！」ご希望があれば  
医療機関に伺います。お気軽にお声がけください。

- 血液製剤の管理方法を確認したい
- 検査方法が本当に正しいのか疑問
- 輸血の実施手順に不安がある
- 輸血副反応の確認内容を再確認したい
- 記録の保管期間がわからない



お問い合わせは・・・

『長野県 献血推進協議会 輸血療法部会 事務局』

長野県 健康福祉部 薬事管理課 TEL026-235-7157

長野県赤十字血液センター TEL026-214-8194

<https://www.pref.nagano.lg.jp/yakuji/kenko/iryo/iyakuhin/yuketsuryouhou.html>



#### (資料4)

### 第148回 日本輸血・細胞治療学会 関東甲信越支部例会抄録

長野県輸血療法部会による県内医療機関を対象とした訪問活動の実施

小林侑<sup>1)2)</sup>, 小嶋俊介<sup>1)2)</sup>, 佐伯成規<sup>1)3)</sup>, 村上純子<sup>1)4)</sup>, 柳沢龍<sup>1)2)</sup>

長野県献血推進協議会輸血療法部会<sup>1)</sup>, 信州大学医学部附属病院輸血部<sup>2)</sup>,  
長野県健康福祉部薬事管理課<sup>3)</sup>, 長野県赤十字血液センター<sup>4)</sup>

【はじめに】長野県輸血療法部会は血液製剤の安全かつ適正な使用を推進し、輸血療法の向上を目的として設置されており、これまで県内の医療者を対象とした様々な輸血教育を行ってきた。しかし、医療機関によって施設規模や医療内容が異なるため、必要とされる輸血事情が均一ではない、各施設からフィードバックを得ることが難しいなどの課題があった。

【方法】輸血療法に関するアドバイスやサポートを目的とした新たな取り組みとして「ASSIST ワーキンググループ」(以下、ASSIST WG)を平成30年度より設置した。ASSIST WGは県内に所属する医療者(医師・看護師・臨床検査技師)、赤十字血液センターならびに県職員で構成され、希望のある施設には直接訪問し意見交換を行うこととした。訪問に際しては予め事前調査票を送付するとともに、訪問時に希望する相談内容を確認した。訪問後は長野県独自の評価項目に基づき報告書を作成し実施施設に送付した。

【結果】令和元年7月末時点で計4施設への訪問を実施した。施設規模の内訳は300床以上2施設、100～299床1施設、99床以下1施設であった。実施内容は、輸血管理部署の見学、輸血実施手順の確認、院内教育や輸血管理料に対する取り組みへの聞き取り、輸血に関する勉強会の実施など多岐にわたった。

【結論】医療現場でスタッフから直接意見を収集しながら、各施設事情に合った意見交換が実施できたと考えられる。一方で訪問者自身への教育効果もあると考えられ、今後も本活動を通じて県内輸血療法の向上を目指したい。

## (資料5)

### 第43回 日本血液事業学会抄録

#### 輸血療法実施医療機関へのアドバイス・サポート訪問活動報告

大田 智<sup>1)</sup>, 平林盛人<sup>1)</sup>, 小池敏幸<sup>1)</sup>, 村上純子<sup>1)</sup>, 佐伯成規<sup>2)</sup>, 太田 靖<sup>2)</sup>, 小嶋俊介<sup>3)</sup>, 柳沢 龍<sup>3)4)</sup>

長野県赤十字血液センター<sup>1)</sup>, 長野県健康福祉部薬事管理課<sup>2)</sup>,  
信州大学医学部附属病院<sup>3)</sup>, 長野県献血推進協議会輸血療法部長<sup>4)</sup>

【はじめに】長野県における輸血療法実地医療機関の約 85%は 300 床以下の中小規模病院であり、その殆どが輸血専門医、学会認定看護師・認定技師は不在である。そのため、安全な輸血療法を実現するには、長野県全体を視野にボトムアップが重要である。今回、我々は長野県献血推進協議会輸血療法部会の下部組織として、医療機関へ訪問する組織（略称 ASSIST WG）を設置し活動を開始したので報告する。

【対象と方法】対象は ASSIST WG の趣旨に賛同し訪問を希望した施設。・ ASSIST WG は、医師、看護師、臨床検査技師からなる訪問チームを構成。・施設は事前質問票を提出。・施設を訪問し、製剤保管、検査、輸血実施手順等の確認ラウンドを行う。・ディスカッションを行う。

【結果】2018 年度は 300 床以上の医療機関 2 施設、300 床未満 1 施設を訪問した。事前質問票を参考に院内ラウンドを行いながら、血液製剤保管方法の効率性、安全性についてアドバイスをを行った。具体的には、製剤の縦置き保存を推奨し、有効期限や本数確認、外観確認（溶血）までがスムーズに出来る改善につながった。また、輸血業務のロールプレイを行った結果、輸血直前の確認作業が十分なダブルチェックでないことが指摘され、その後の職員増員につながった事例もあった。全体として、訪問し実際に見ることで、ガイドラインの軽微な逸脱や簡略化に相当する輸血体制手順の違い（=ローカルルール）が見えてきた。

【考察】多くの医療機関にとって、外部機能評価は敷居が高い。ASSIST WG は医療機関の実情に沿ったアドバイスをし、意見交換をすることで改善へつなげる事を目的としており監査ではない。また、外部の目が入ることでローカルルールに陥りやすい医療機関の輸血療法問題点が明確になる。既に ASSIST WG の指摘が院内輸血療法委員会へ改善提案の根拠になり、速やかな対応につながった事例も出ている。今後 ASSIST WG ラウンドを構築して、安全な輸血療法につながる活動に努めていきたい。

(資料6)

長野県輸血療法マニュアル (Ver 2.0) ※表紙のみ



# 長野県 輸血療法マニュアル (Ver 2.0 Web版)



長野県献血推進協議会 輸血療法部会

2020年3月発行

